

報告事項ウ

サポートの必要な家庭の現在（いま）を知るための講座」の開催等について

サポートの必要な家庭の現在（いま）を知るための講座」の開催等について、別紙のとおり報告します。

平成29年7月6日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

『サポートの必要な家庭の^{いま}現在を知るための講座』の開催等について

平成29年7月6日

県立図書館は、本年度から生活困窮家庭やひとり親家庭等の「サポートの必要な家庭」を応援するための事業をスタートしました。最初の取組みとして、社会の現状や課題について学ぶために、県内で活動する支援者を招いた職員勉強会を開催しました。

1 第1回（5月11日（木） 鳥取県立図書館大研修室）

（1）講演内容

「学習支援施設・子ども食堂から見える子どもたちの現在」

講師：岡 武司 氏（NPO こども・らぼ）

内容：鳥取市で学習支援施設・子ども食堂を運営するNPO「こども・らぼ」での活動について聴き、現場で感じる子どもの様子や家庭の現状、子どもたちが集う「場所」の運営について学びを深めた。

（2）参加者

57名（県・市町村立図書館、学校図書館、県福祉保健課くらし応援対策室、市町村スクールソーシャルワーカー（SSW））

（3）参加者からの感想

- ・貧困問題は、物質的な問題だけではなく、社会との関わりやコミュニケーション能力、金銭感覚にまで及ぶと気付かされた。
- ・図書館が静かに勉強や調べ物をする場所という枠を外さなくてはならない。
- ・図書館を第3の場所として知ってもらえる取り組みを考えるべきだ。



（4）その他

- ・岡氏は7月27日に開催する鳥取県図書館大会にも参加予定である。
- ・新聞3紙の取材があり、後日、報道を見た県民の方から、図書館での学び直しの支援を利用したいという連絡をいただいた。

2 第2回（6月8日（木） 鳥取県立図書館大研修室）

（1）講演内容

「子どもを支え続けてきたことで見えてくる日本と鳥取県の現在」

講師：福島史子氏（鳥取県教育委員会事務局いじめ・不登校総合対策センター
スクールソーシャルワーカー活用事業 スーパーバイザー）

内容: S S Wとして多くの子どもや家庭に関わって来た経験から、現在の日本、鳥取県における貧困問題の現状や、生活困窮家庭、子どもたちが抱える課題について学んだ。

(2) 参加者

67名(県・市町村立図書館、学校図書館、県福祉保健課くらし応援対策室、町教育委員会、市町村S S W)

(3) 参加者からの感想

- ・ふつうに見える支援が大切だと学んだ。
- ・数字を含めた実情が衝撃的だった。知ることができてよかった。
- ・単発で終わらせないように、図書館で何ができるか職場に戻り皆で考えたい。
- ・学校、教育委員会、福祉担当課等が情報共有をして、子どもの声を聴き、何が子どものためにできるのかを考えることが大切だ。



(4) その他

- ・TVの取材があり、ニュースを見た県内小学校図書館職員から資料がほしいとの連絡があった。

3 今後の予定

- ・支援機関や団体職員を招き、図書館の活用法について考えるセミナーを県内3ヶ所で開催(9~10月を予定)
- ・図書館活用法を紹介するポスター・リーフレットの作成
- ・支援制度、奨学金等のチラシ・パンフレットの収集
- ・啓発イベントや展示、相談会、研修会の図書館への誘致
- ・関係イベントへの出前図書館の実施
- ・関係団体や教員に向けたブックリストの作成
- ・社会人が学び直しをするために必要な資料の購入